

理科

➔ 4年生 | 「夏の星・月の動き」

9月こそ、星や月に
親しませるチャンス!!

1. 夏の大きな星は秋が見つけやすい!

「夏の大きな星」は、教科書によっては、夏休み前に学習するようになっていますが、ちょうど梅雨時にあたり、星や月が見えるチャンスは多くありません。また子どもたちが観察する午後7時頃は、まだ東の低い空にあるので、子どもたちにとっては「あの星がベガだ」と同定しにくいのです。

9月から10月にかけてこそ、夏の星に親しませるチャンスです。それは夏の大きな星のこも座のベガが、午後7～8時頃、天頂(頭の真上)に見えるからです。

頭の真上近くにある、一番光っている星が、夏の大きな星の一つ、こも座の「ベガ」です。

2. 誰にでも見つけられる星から教えよう

子どもたちを星に親しませるには、どの子にも簡単に見つけられる星から教えることが大事な点です。

自分の家からの方位はよくわからなくても、頭の真上ならわかります。また、一番明るく光っているということからも、星を容易に同定できます。

ベガがわかったら、それを原点に夏の大きな星やさそり座などへと、一晩に一つずつ、観察する星や星座を広げていくようにします。

また、誰にでも見つけられる星として、金星や木星などの、よく光る「惑星」を使うのも有効です。幸い、9月には「宵の明星・金星」が、西の空に素晴らしい輝きで瞬いています。

夕方、西の空の一番星は「金星」です。

金星は9月24日に-4.6等の最大光度になり、昼間の青空の中でも肉眼で見つけられます。太陽光を避けながら見つけ出すのもおもしろいでしょう。

3. 9月は月の観察にも最適

月の観察学習の必需品は「天文年鑑」などのこよみです。4年や6年の担任の先生は、必ず購入しましょう。天文年鑑には、その日の月の形(月齢)や位置などが書いてあります。それを見て、夕方に月が見えそうな日を確認したら、チャンスを逃さず、月の観察の宿題を出しましょう。

◆2010年9月の月のこよみ(日没後の月の見え方)

11日…三日月(西の空に。金星も近くに見える)

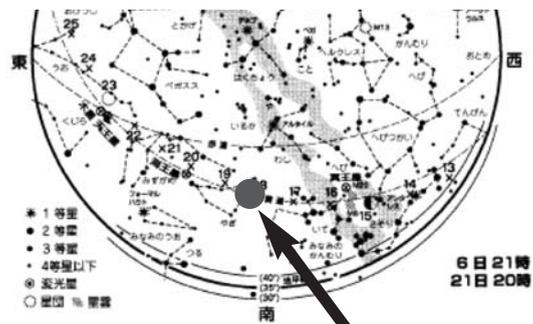
15日…上弦の月・半月(南西の空に。学校でも午後であれば南東の空に観察できる)

22日…中秋の名月(東の空に)

23日…満月

4. 星座盤に月を書きこむ(シールを貼る)

月の動きの観察に「星座盤」を活用しましょう。子どもたちの持っている星座盤に、その日に見える月の位置を示す黄色の丸いシールを貼らせます(月の位置は天文年鑑に書いてあります)。太陽の位置にもシールを貼るとベターです。月や太陽のシールを貼った星座盤を回すことで、月も星や太陽と一緒に東から南、西へと動いていることがわかります。



星座盤に月のシールを貼る

9月の空(「天文年鑑2010」誠文堂新光社より)